

私立大学情報教育協会
平成26年度
大学職員情報化研究講習会
基礎講習コース報告

F班2グループ [s7]

1

発表テーマ

一人ひとりに合わせた
学生支援のために

2

一人ひとりに合わせた学生支援のために

テーマ選定理由(1) 大学の役割

私たちが考えた大学の役割

多くの高度な人材を輩出すること

役割を果たすために、大学は何をしなければいけないのか

個々に適した教育・支援
学生一人ひとりの能力を伸ばす教育・支援

3

一人ひとりに合わせた学生支援のために

テーマ選定理由(2) 大学の現状

大学の現状はどうだろうか？

- 教職員が個々の学生情報の把握・活用ができていない
→適切な対応ができていない
- 部署内でしか情報共有がされていない

役割を果たすために、どのような取り組みが必要なのだろうか？

各部署で埋もれている
学生の情報を活用できる
仕組みづくり

収集

早期対応

課題発見

共有

4

一人ひとりに合わせた学生支援のために

テーマ選定理由(3) このテーマを選んだ理由

大学の役割、大学の現状を踏まえて、何が重要と考えたのか？

一人ひとりにあった学生教育・支援の実現



一人ひとりに合わせた
学生支援のために

5

一人ひとりに合わせた学生支援のために

問題点の深堀

- ① 教職員が不登校者の学生の把握ができていない
- ② 学生の学力や意欲に差がある
- ③ 必ずしも個人に合わせたキャリア支援が出来ているとは言えない

6

一人ひとりに合わせた学生支援のために

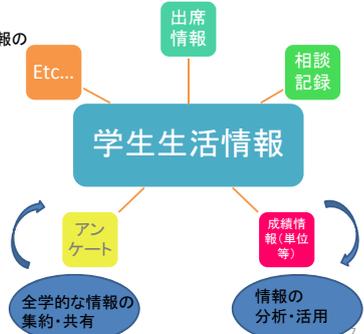
解決策の検討

各部署ごとが保有する学生生活情報の共有システム
部署間の垣根を越えたシステム

学生生活情報とは...

●閲覧可能者: 全教職員

●集約情報: 出席日数, 面談記録 (保健室, 教務関係, 就職関係等) 修得単位数等



一人ひとりに合わせた学生支援のために

解決策の検討①

システム構築によって得られる成果・効果

①教職員が不登校者の学生の把握ができていない

→各部署での面談記録等のデータにより, 学生が抱えている問題を把握し, 指導ができる+退学者減少につながる

8

一人ひとりに合わせた学生支援のために

解決策の検討②

システム構築によって得られる成果・効果

②学生の学力や意欲に差

→過去のデータベースを利用することにより, 先輩による支援ができる(相談等)

ロールモデルの提示

9

一人ひとりに合わせた学生支援のために

解決策の検討③

システム構築によって得られる成果・効果

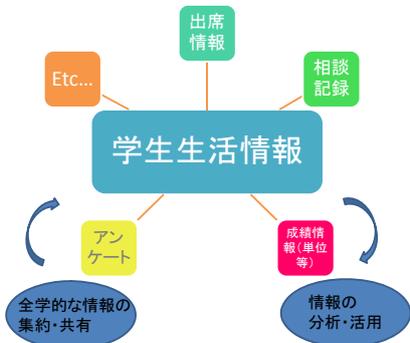
③必ずしも個人に合わせたキャリア支援ができていないとは言えない

→就職・進路先に関して, その学生に向いているもの(企業・像)について助言できる

10

一人ひとりに合わせた学生支援のために

大学のイノベーションの提案



11

一人ひとりに合わせた学生支援のために

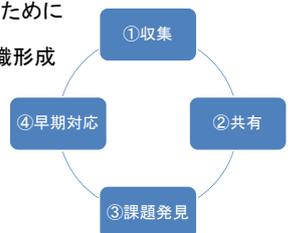
大学のイノベーションの提案

実現に向けて

・多角的視点からの発見と対応をとるために

学生生活情報を活用するための組織形成

構成員: 各部署の代表職員, 教員, 在学生 +【企業の人, 卒業生】



12